

【農業生産の振興（生産流通対策）】

～ 農業施設におけるペレットボイラー導入の取組み ～

1 地域の概要

玉川村は、福島県の中通り南部、阿武隈山系西側に位置し、東西に11.3 km、南北に9.2 km、面積46.56 km²であり、平坦地である西部と山間地である東部に大別される。

年間平均気温は11.9℃、年平均降水量は1,200～1,300mmであり、標高は248m～740mで起伏が多く、気象条件変化が大きいのが特徴である。

本村の農業は、稲作を中心として、トマト・キュウリ等の野菜、畜産の複合型経営が行われている。

2 組織の概要

名 称：玉川村加温ハウス組合

組織構成：認定農業者3名

設立年月日：平成21年9月2日

3 取組みの契機、内容

本村には第3セクターで運営している(株)こぶしの里があり、毎年売上を伸ばしてきたが、平成20年春頃より、売上が落ち込むようになってきた。原因は2つ考えられ、1つは、ガソリン代の高騰による出控え、2つ目は、主力野菜である加温トマトの出荷時期の変更による4～5月の商品不足と6月以降の集中出荷による商品のダブツキであった。

出控えはやむを得ないとしても、作型の変更は予測できなかったため、原因を探ると、燃料高騰によるものと判明し、その喫緊の対処が求められた。

その頃、農業共済新聞にペレットボイラーの記事が掲載され、「これは活かさないか？」と思い、6月30日開催の認定農業者総会の際、導入について農家に打診したところ、現物を実際に見てから検討することとなった。

7月17日に農家3名、役場職員2名、須賀川農業普及所職員1名の総勢6名で、記事を頼りに山形県鶴岡市の現地まで訪れた。

視察の結果、農家の意見は好評で、来春出荷のトマトの定植が8～11月頃となることから、作業進行の妨げにならないよう早速9月補正予算で村単独補助を盛り込むとともに、県に補助の問合せを行った。

更には、村内の加温ハウス農家を対象にメーカーから借りたペレットボイラーによるデモンストレーションを9月2日に実施したところ、近隣の市町村からも参加者があり、総勢45名が集まった。ボイラーの熱量が2万キロカロリーと小さく物足りないと感じた参加者が多かったが、村では、3名の賛同者を得て組合を設立し、県補助事業を申請するに至った。

その結果、事業は採択となり、組合員3名がそれぞれ1台ずつ、合計3台の導入ができた。

4 取組みの効果

2月現在、唯一トマトを出荷している農家では、A重油ボイラーの燃料使用量は昨年比で約半分で済み、月5万円弱のペレットボイラーの燃料代を加えると、総額で20～35%の経費削減が得られている。

更に、出荷量が増加するとともに、「病気の発生がない」、「色回りが良い」といった効果も見られている。

他の2名は、苗の育成中ではあるが、重油使用料の軽減の効果が得られている状況である。

5 国、地方公共団体等の施策支援との関わり

県：戦略的産地づくり総合支援事業（1／3補助）

村：農林業振興事業（1／3補助）

6 現在の問題点及び今後の改善方向

ペレットボイラー単体の場合、送風機がなく、熱量も少ない為、設置方法によってはただの道具となる恐れがある。今回の導入では、三者三様の設置方法をとったため、導入者間に燃料経費の削減効果に差が出てしまった。

今後は、ペレットボイラーの使用結果を分析し、設備投資が少なく、かつ有効的な設置方法を検討するとともに、20年度実施結果については発表の場を設け、導入を検討している農家へ情報を提供したいと考えている。

また、21年度の導入においても、村補助事業を実施するとともに、県と調整しペレットボイラー導入農家の負担軽減を図っていきたい。



山形県鶴岡市視察



ペレットボイラー設置状況



デモンストレーション（説明の状況）